

【埼玉県】

校務DX計画

【現状と課題】

埼玉県では平成27年度から県立高等学校、令和6年度から県立特別支援学校で校務支援システムを導入し、校務のデジタル化を進めている。令和5年度にはペーパーレス支援ソフトを全県立学校で導入し、教職員の情報共有や書類作成の効率化等、各種デジタル化を進めている。

また、令和4年度より授業や生徒の健康管理等の教育活動を行う教職員に指導者用端末を順次整備し、汎用のクラウドツールを活用することで各種資料及び教材をオンラインで共有できるようにしている。

各種デジタル化を進めてきている一方、学校現場においては、事業者や保護者との連絡や書類のやりとりにおいて、依然として紙ベースでの資料配布や提出を求めるケースが見受けられる。

また、児童生徒の個人情報等を取り扱う校務系ネットワークと、教職員や児童生徒が教育活動で使用する学習系ネットワークが分離しており、学習系のデータと校務系データとの円滑なデータ連携が困難である。ネットワークの分離により、校務と学習で異なる端末を用いざるを得ない場合が多く、業務負担の増加の一因にもなっている。

今後は、業務の円滑化・効率化の観点から、各種システムを活用しながら、校務のDXに向けて取組を一層進める必要がある。

【目指す姿と基本方針】

「ICTを活用した事務の効率化を推進することで校務の改善を図り、教職員の負担軽減を図る」

【課題解決に向けた施策】

1. クラウドサービスやペーパーレス支援ソフト等の活用による教職員の負担軽減

県立中学校においては、今後、次世代の校務支援システムの導入・運用について検討を進めていく。また、校務の改善に繋がるクラウドサービスやペーパーレス支援ソフト等の活用推進と事例共有、採点業務の効率化と解答データの分析が可能となるデジタル採点システムの活用等、校務支援に係る各種システムの活用による事務の効率化を進め、校務に係る教職員の負担軽減を図る。

2. 校務系ネットワーク及び学習系ネットワークの統合

教職員・児童生徒の双方がアクセスできる学習系ネットワークと、教職員のみがアクセスできる校務系ネットワークの分離を必要としないアクセス制御による対策を講じたネットワークを検討し、柔軟性とセキュリティの双方を担保した新たな教育情報ネット

ワークを構築する。また、校務用端末と指導者用端末を統合し、異なる端末の使用による業務の負担軽減を図る。

3. FAX及び押印の見直し

FAXでのやりとりや押印の見直しに向けて、ペーパーレス支援ソフトの活用推進や好事例の共有を図る。また、各学校・関係機関等における慣行の見直しを推進する。